

# 学生新聞

放送大学  
埼玉学習センター  
埼玉CSC交流会  
学生新聞  
編集委員会  
〒330-0853  
さいたま市大宮区  
錦町682-2  
TEL.048-650-2611

## 第11回埼玉フェスタは9月に 公開講演会は足立センター所長 今年もジャズ・ライブ・コンサート開催 投句は7月1日から募集開始

埼玉CSC交流会の代表者会議が、6月8日（木）午後1時から開催された。会議には、今年度の役員や各サークル、同窓会、センター事務局の代表者などが集まり、9月9日（土）と10日（日）の2日間に開催が決定している第11回埼玉フェスタについて、様々な協議が行われた。

今年のフェスタは例年よりも1か月早い開催となるため、各種のイベントに関する詳細な内容はまだ未定となっている。また、毎年恒例の俳句・川柳の投句に関しては、毎年、募集期間をフェスタの1か月前からとしてきた。しかし、今年の募集期間は例年より早く、フェスタに先立つ2か月

前の7月1日からとなった。詳しい募集内容として、左に昨年までの募集要項をまとめて掲載した。また2年前までは、フェスタ賛助券購入者のみが投句できるシステムであったが、現在は、賛助券購入を条件にはしていない。

最近では投句数が減少してきているが、投句の受付方法として、学習センター9階ロビーに投句箱を設置するほか、郵送による応募だけではなく、パソコンやスマホによる電子メールでの投句も可能になっている。これにより、一層多数の投句が見込まれるのではないかと期待されている。

一方、参加者が気にかけている個人作品展やサークルによるイベント、懇親会パーティ、バザーなどについての詳細な日程は、次回以降の役員会に委ねられた。

そして、恒例の埼玉フェスタの特別公開講演会は、9日の土曜日に行われる。講演者は柴眞理子足立学習センター所長となっている。仮題は「身体表現の力 Dance for All」からだは語る・からだで語る」と決まった。

埼玉フェスタに独特の雰囲気を出している「お茶席」は現在、今年の実施が未定となっている。しかし、「アンチエーシング」サークルによる、誰もが参加できる合唱会が、懇親会準備中に多目的室にて開催される予定である。

また、参加者から非常に喜ばれ、大きな反響を得ている懇親会パーティでのジャズ・ライブ・コンサートは、フェスタ恒例の催しとなっているが、今年も、10日の日曜日に予定されている。（冬木）

- ### 第11回埼玉フェスタ 俳句・川柳投句募集
- \* 募集期間**  
7月1日（土）～
  - \* 応募資格**  
放送大学の学生、卒業生、教職員
  - \* 投句数**  
一人につき、俳句・川柳各1句
  - \* 優秀句の決定**  
フェスタ会場での投票
  - \* 投票方法**  
投句者は自分の句には投票不可
  - \* 投票期間**  
フェスタ期間中の予定
  - \* 優秀句には賞品を授与**
  - \* 投句方法**
    - ①埼玉学習センター9Fロビーに設置する投句箱に直接
    - ②埼玉学習センター気付フェスタ事務局宛に郵送で
    - ③電子メールを利用  
y.shinoda.b.m79@gmail.com

### 事務室からのお知らせ

7月の単位認定試験  
実施は21日から

7月21日（金）～30日（日）まで単位認定試験が行われます。試験時間を確認し、遅れないよう受験して下さい。

### 第2学期の科目登録 8月30日日本部必着

平成29年度第2学期の授業科目登録は次の通り

7月21日（金）～30日（日）まで単位認定試験が行われます。試験時間を確認し、遅れないよう受験して下さい。

左記日程で、卒業研究ガイダンスを行います。日時：平成29年7月2日（日）13時半～15時

内容：卒業研究についての説明会

希望者は、センターの窓口又は電話（048-650-2611）にてお申し込みください。

### 卒業研究ガイダンス 7月2日に説明会

左記日程で、卒業研究ガイダンスを行います。日時：平成29年7月2日（日）13時半～15時

内容：卒業研究についての説明会

希望者は、センターの窓口又は電話（048-650-2611）にてお申し込みください。

### オープンキャンパス 7月と8月に開催

埼玉学習センターのオープンキャンパスを左記の日時に行います。日時：平成29年7月16日（日）、8月5日（土）

いずれも14時～16時

内容：大学の概要説明、履修案内、卒業生の体験談、施設見学、個別相談などを行います。

また、7月16日には、面接授業を見学することも可能になります。

### 看護師・准看護師等 への個別相談会

看護師・准看護師の方への個別相談会を次の要領で行います。日時：平成29年8月10日（木）10時～

対象：①学士（看護学）取得をお考えの方、②看護師国家試験の受験を目指す准看護師の方

※時間は、1人30分程度です。希望者は、センターの窓口又は電話（048-650-2611）にてお申し込みください。

### 7月～8月の 臨時閉所のお知らせ

埼玉学習センターは、7月28日（金）、8月1日（火）、2日（水）、12日（土）、13日（日）及び15日（火）に臨時閉所となりますので、ご注意願います。

### 「第1回《絵画サロンこざわ》」 ～ドローイングとは何か～福盛田恵子

5月20日（土）午後1時～3時、8階実験室にて、第1回絵画サロンこざわ『ドローイングとは何か。描くとはどういうことか』が開催されました。参加された方々と共に、小澤先生の熱意溢れるお話や映像で学ばせていただきました。

「ドローイングとはラクガキである。対象を前にして得た感覚や情緒、思い当たる自分の心の中にある思考・記憶像などを、自分が感じたこと、思ったこと、自由自在な線や色・形で描くこと。対象を正確に描く必要なし。自分が気に入ったら、それが正解」と話されました。

映像で、ドローイングの作品が紹介されました。イタリアの画家サイ・トウオンブリーの作品は、子どものいたずら描きのように見えます。これに価値があると最初に言った方だそうです。オーストラリアの画家エミリー・ウングワレーの作品は、ねっこを力強く描いています。美術教育を受けたことがなく、70歳を過ぎてから絵を描き始めた方だそうです。メキシコの画家フリーダ・カーロのドローイング日記、アメリカ合衆国の女流作家ジェニファ・バートレットの作品等が紹介されました。

10代の学生の頃、美術の学習のスタートに石膏デッサンをした私は、描く対象の形をより正しく描く描写力が、表現力との思い込みがありましたが、どうやら違うと思うようになりました。デッサン力があるかなしかなではなく、自分の描きたい思いで自由に描くことが、自分の表



現に繋がることに気が付きました。自己発見・表現ツールとして楽しもうと思えました。

描いた絵を持参した参加者が作品を見せてくださり、小澤先生の先導で鑑賞会をしました。花や風景のスケッチとご自身の記憶を入れて作品にした絵の写真を見せてくれた方がいました。博物館の仏像のスケッチを見せてくれた方もいました。



似顔絵や、自らの想像と創造の世界を広げた遊び心満載の絵を並べて見せてくれた方もいました。それぞれの思いで、絵を描くこと・見ることを楽しんでいました。描くことに上手・下手はないことを痛感し、絵を描く楽しさ、見る楽しさ、鑑賞しあう楽しさを体験した時間でした。学習センターのロビーに月替わりで展示させていただいたら、より多くの方々に楽しんでいただけそうとの提案もありました。

小澤先生から、「ドローイングを楽しくやりましょう。自分にふたをしなくて、『自分って素敵』を発見しましょう。」とのお誘いがあり、次回（6月17日）は、自作のドローイングやスケッチ・絵日記等を持ち寄っての鑑賞会や描画をすることになりました。スケッチブックや描画材（鉛筆・墨・ボールペン・クレヨン・水彩絵の具・アクリル絵の具等）を持参します。一緒に、ドローイング・ラクガキを楽しみながら、自己発見の旅に出しましょう。（写真はいずれも、小澤基弘先生の作品）

「引退を決意する時」 笹原誠二  
長い間、日本の女子バレーボール界を引っ張ってきた木村沙織選手が3月下旬に引退を発表した。17歳の時から日本代表として4度のオリンピックに出場し、今迄日本チームの主将として背負い続けた強い責任感や、引退する事は大変な重圧であったろう。一昨年の東京体育館での日本選手権大会・皇后杯で見た彼女は、すらりとした色白の笑顔が素敵な女性であった。

私も学生時代と入社してから5年間、バレーボールの選手として試合に臨んだが、団体競技とはいえ、主将として参加していた時は、常に「自分」が上だった。常に「自分」が相手コートに叩き込み、サーブの際には、必ずポイントを獲得するなどの期待に応えるという一種の義務感を感じていた。

選手として引退を決意した時は、精神的にも肉体的にも限界を感じ、エースとして期待に応えられなくなると感じ、もう自分のポジションを誰かに譲ってもいいかなという、妙に諦めと安心感を求めている感じがちであった。大事な試合に惜敗した時にも、悔しいという気持ちが段々と薄れてきて、負けた原因を分析し、更に次の試合に活かそうという努力をしなくなると、引退の決意をするものだと私は考えていた。

誰もが日本のエースとして認めていた彼女が、引退会見の場で「自分がエースと思った事はない。まだ自分は発展途中であり、いつ辞めても良いと常日頃思っていた」と述べたのには感動した。一流選手にもなる、どこかに心の余裕と、我々と違う何かを持っているなと感じた。

学生を募集しています。出願は切（大学本部必着）は、第1回が8月31日（木）、第2回が9月20日（水）までです。放送大学に興味・関心のある方をご存じでしたら、是非、ご紹介下さい。紹介された方が入学した場合は、薄謝を呈します。



投稿コーナー

萩窪・お花見文学散歩

大塚絹子



分岐点に通止の標識

霧雨がまだ残っていたが放送大学の有志の一行は萩窪駅西口を定刻通りに出発した。駅前商店街を抜け、マンション街も過ぎると、急に閑静な住宅地となる。よく手入れが行き届いた庭木が美しい花を咲かせていた。坂を少し下ると高い石垣が続く、赤松が数本聳え、この辺りには萩窪と呼ばれている。風見鳥の飾りの洋館もあり、瀟洒な高級住宅が並んでいる。昭和初期に建てられた近衛文麿の別荘、萩外荘（ていがいそう）があった。命名は元老西園寺公望という。近衛文麿が自殺したのはこの家である。

側の茶室の前には水琴窟まで造った。茶室に向かう飛石伝いの小道の途中に、丸い石が黒い紐で結ばれて置いてあった。何かと思えば、それは道の分岐点に置かれた通止の標識だ。茶人が母屋が住まわれることになったが、角川春樹も住んでいた。今は杉並区に寄贈されて、「すぎなみ詩歌館」として記念の展示室も設けられている。庭には馬酔木の花やシャクナゲの花が咲き、柚の実が幾つも落ちていた。道を曲がり、坂を上り下りして、大木の多い大黒公園に入ると、びっ

た。名刺の中に導かれていくようであった。田舎家風の土間の一角に腰かけると、心地よい春風が吹き抜けて、竹林がさわさわと音をたてて揺れていた。池を真ん中に30坪ほどの回遊式の庭園が広がっていた。音楽評論家として大正から昭和の初期にかけて、ヨーロッパに留学し、西欧の音楽を日本に紹介した大田黒元男の邸宅であった。洋館には大きな暖炉のある本の書齋があった。ピアノを据えてあり、彼の音楽評論の資料が公開されている。彼の父親は、日本東芝を築いた一人であり、庭には竹やぶがあり、群れの一人静やぶが黒椿が咲いていた。池には小千谷の錦鯉が泳ぎ、大きな樹々には名前の札が掛けてあって、さながら植物園のようである。紅葉の秋の風情を想像して街に戻ると、住宅街の満開の桃の花の咲く可愛い幼稚園風の建物前に出た。「ぐりとぐら」で有名な絵本作家の石井桃子の家である。また、黒川紀章設計の杉並区立中央図書館の庭では、辛夷（コブシ）の白い花と桜の花の競演であった。辛夷の花は一枚ずつ小さな葉を付けている。

駒に向かう途中に、アルデコ風の丸い屋根のドームのある古風なホテルがあった。右から「西郊ロッヂンダ」と書いてあり、昭和6年に建築されたのである。斎藤茂吉と永井ふさ子はこのホテルに泊まったことがあってはいないだろうか」と川本三郎は次のように述べている。『北杜夫の評伝』茂吉の文章（昭和10年6月）が紹介されている。『この日蝕の日を先生と共に野道で仰いだ。萩窪で待つ様に、との約束で、新宿中央線ホームに来た時、中央線ホームを少しあみだに被った先生の姿を見つけて私は近寄った』まだ武蔵野の面影を残す郊外は、しばし二人を「しのぶ恋路の苦しさ」から解放してくれたことだろう。『郊外の文学誌』川本三郎著、新潮社、2003年

夏の川ジープン濡らす膝頭 青嵐青き天狗の鼻の先 夕映えにそびゆる鳥城夏の川 さまよえる遠野の河童夏の雨 夏服や水平線の輝きて 欄干を少年蹴りて夏の川 トンネルを過ぎてパノラマ夏の川 馬の背を洗う少年夏の川 甲斐ヶ峰の雲をおとして夏の川 大岩を蹴りて波紋や夏の川 夏至夕べ天地返しの味噌の甕 吊り橋に子等の声揺れ夏の川 森陰の一路歌々夏の川 見学歓迎 第2木曜日午後1時

とく江 光娥 十詩 明美 由美 順 博士 厚子 陽子 八重子 安代 保子



本多静六像

銀色の日々 大西 亮 「本多静六について学ぶ」

去る4月23日、久喜市菖蒲町にある本多静六記念館を訪ねた。本多博士は林学の大先輩で東京大学教授のほか、全国各地の有名な公園の設計に携わった。明治神宮、日比谷公園、大宮公園の設計や日光、

軽井沢の町づくりなど60以上に及んでいる。その他、国有林の造林や社会貢献活動で我が国の発展に尽くした功績は大きなものがあり、埼玉県を代表する偉人の一人である。しかし、渋沢栄一、塙保己一、荻野吟子ほどには知られていない。不思議なくらいである。なぜ知られていないのだろうか。専門分野が地味なこともあるだろう。その理由を少し推察してみた。

昔は貧しい中でも刻苦勉励する人物が多かった。その中の典型的な人物が本多である。幼少の頃から現役時代はもとより晩年まで、その心掛けと実行力、そして成し遂げた成果は素晴らしいものがある。生涯で370冊もの著作があり、生きざまや人となりを知る資料や文献も沢山ある。「成功のための

十二か条」など多くの処世訓を残している。凡人には立派過ぎる点が欠点とさえ言え、そう言えるかも知れない。具体的なエピソードや人間的な魅力が広く知られるようになる。生き方のお手本となるだろう。知り得た幾つかを紹介してみた。

◇昔はみな家の手伝いをよくしたものだ。本多少年はから白で米をつくる手伝いをした。米をつきながら本を読む術を考えついたという話が残っている。

◇東大農学部に入り入学したが、卒業の時は首席だった。

◇養子縁組の話をする口実として、ドイツへ留学をさせてくれるかとの条件を出したところ、岳父があっさり承諾した。しかし、留学後しばらくして、岳父が預金していた

銀行が倒産し、送金が期待できなくなった。そこで留学予定の4年を2年に切り上げ、生活費を切り詰めて勉強、2年で博士号を取り帰国した。その後、東大の助教、教授と昇進している。岳父は元彰義隊の頭取・本多晋（すすむ）である。

◇妻鈴子（せんこ）は日本で四人目の女医となった才媛で、開業医としての功績を残している。本多は貰った手紙があまりに名文だったのでほれ込んだという。

◇生涯、収入の25%を貯金し大々んな資産家となったが、晩年には、その殆どを国や公共のために寄付している。

今後、機会をとらえて、人としての魅力を紹介してみたいと思っている。

平成29年度「サロンしずや」 14:00~16:00  
 「戦後中編小説の代表作 **一さまざま人間観と味わい**」  
 講師=渋谷治美所長  
 ◎第2回 7月13日(木) 安部公房 「砂の女」

「江戸時代の古文書を読む会」  
 会の魅力を紹介 代表 篠田安彦

学生団体「江戸時代の古文書を読む会」は1995年12月、放送大学の面接授業「文献学」として、放送大学の杉浦克己教授の授業を受けた事がきっかけとなり、発足しています。面接授業終了後も、「文献学」の魅力にとりつかれた学生有志や他センター学生らと共に杉浦先生にご指導を頂きました。

しかし残念ながら、杉浦教授は2011年早世し、現在は、共立女子大学教授で放送大学非常勤講師でもある堀新先生に当会のご指導をお願いしています。堀先生は早稲田大学大学院文学研究科の博士課程を卒業し、2009年早稲田大学の博士号（文学）を取得されており、放送大学埼玉学習センターでは「江戸時代の古文書を読む会」の指導のみならず、平成18年8月26日に行われた初めての講演会の開催以来、平成19年から27年まで多年に亘り、毎年の公開講演会の講師を務めて下さいました。

特に記憶に残っているのは最初の講演会で、この時は大宮宿中山道宿場の出来事を取り上げました。岡山大学付属図書館池田家文庫所蔵史料より、江戸時代の明和5年（17

一般公開講演会 8F講堂 14:00~16:00  
**シリーズA 《芸術は人間を救うか》**  
 150名（参加無料/申込み順）  
 参加希望者は埼玉学習センターHPから又は、☎048-650-2611に申し込んで下さい。

★6月25日(日)  
**「オペラ彩の34年—ときめきと共に」**  
 講師：和田タカ子  
 （特定非営利活動法人オペラ彩理事長）

★8月6日(日)  
**「絵画表現の原点を考える」**  
 講師：小澤基弘  
 （埼玉大学教授/放送大学埼玉学習センター客員教授）



「江戸時代の古文書を読む会」と、会の名前は堅苦しいけれど、堅苦しい勉強ばかりではなく、面白い活動や、会員の交流を図りながら、和気藹々と活動を行っています。

会の魅力に惹かれて参加してきた会員の数は現在、23名を超えています。皆さんも気軽に参加して下さい。見学も随時、受け付けています。

67)に旧道164号で勃発した馬子の切り捨てについてのご意見を披瀝して下さいました。題して、「切り捨て御免の真実―武士の特権ではない―」の講演は非常に興味深く、その後の例年の講演に繋がったと思います。

埼玉学習センターにおける「古文書を読む会」の活動は基本的に、月に2回、土曜日の午後に行っています。その内容は、中世織田信長・豊臣秀吉時代の一級史料や諸本の史料学的な比較、検討、斬新な切込み解説、史実の探求などの研究が主となっています。また、一泊の研修旅行では、県外の博物館や郷土史料館などで古文書の原文を閲覧し、読み方だけでなく、それらの古文書の扱い方なども学んでいます。いずれの活動も、根気のある学習を解かりやすく、同時にレベルの高い解説により、知見、見聞を深めてきました。

「江戸時代の古文書を読む会」と、会の名前は堅苦しいけれど、堅苦しい勉強ばかりではなく、面白い活動や、会員の交流を図りながら、和気藹々と活動を行っています。

会の魅力に惹かれて参加してきた会員の数は現在、23名を超えています。皆さんも気軽に参加して下さい。見学も随時、受け付けています。

- サークル案内  
おおみや
- 7月5日(水) 役員会II「秋の研修旅行と後期活動計画案」策定(13時集合)
- 8月2日(水) 「DVD映写会」開催(13時集合)
- 秋の研修旅行と後期活動計画の詳細内容検討終了後、「暑氣払い」
- 江戸時代の古文書を読む会  
★定例会II 6月25日(日) 7月1日(土)、8日(土)
- 朗読の会「ころろ」  
★6月30日(金) 10時~10時~17時・8F講堂  
★7月7日(金) 10時~10時~17時・8F講堂
- 健康体操研究会  
★毎週火曜日 10時半~12時 8階講堂  
★7月4日  
★8月は22日、29日
- むぎの会  
★7月11日(火) 陸前高田市復興視察の日帰り旅行
- 編集後記  
花見を楽しんだ後は、春らしい季節を満喫する間もなく、真夏のような暑さが続きました。体調を崩した方も沢山いました。体調管理をしっかりと、期末試験に臨んで下さい。(冬)